

佐渡市総合計画策定に向けて
佐渡市子育て世代ワークショップ 『子育てしやすい佐渡市にするには？』 【結果報告】
 ■作成 佐渡市企画課 TEL: 0259-63-3802

開催概要

| | | | | |
|-----|---|----|------|--|
| 目的 | 佐渡市の新たなまちづくりの指針となる「佐渡市総合計画」を策定するにあたり、子育てしやすい佐渡市にしていくため、子育て世代の皆様から、普段の生活で感じている子育てへの思いやアイデアなどを寄せ合うこと。 | 内容 | 説明 | ・佐渡市の人口の推移・子育て支援策 ・子育て世代 WEB アンケート結果 |
| 日時 | 令和3年2月7日(月) 10:00 ~ 11:30 | | 意見交換 | ①子育て支援策の評価 ②もう1子の出生に向けたハードル ③解決策を提案しよう |
| 会場 | 新穂行政サービスセンター 第2・3学習室 | | | |
| 参加者 | 24名(4班) ※託児サービス利用8名 | | | |



意見交換の様子



発表の様子

意見交換の結果概要

①子育て支援策の評価

※()は同様の意見の数、2件以上は太字で表示

佐渡市の子育てに関する取り組みについて「良いと思うこと」「不満に思うこと」を出し合いました。

| 施策 | 良いところ | 不満なところ | |
|-------|---|--|--|
| 妊娠・出産 | 特定不妊治療費成 | — | ・対象年齢の上限を上げて欲しい。 |
| | 妊婦健診・妊婦歯科健診 | ●無料であることに満足している。(2) | — |
| | 妊婦訪問 | ●出産前産後の不安を解消してくれて心強い。(2) | — |
| | パパとママのためのマタニティセミナー | ・出産に向けて準備できた。 ・夫婦間の会話のきっかけになり良かった。 | ・マタニティ期の交流の場があったら良い。 ・妊娠時からのパパへの指導を強化してほしい。 ・赤ちゃん教室がない。 |
| | 出産育児一時金 | ・出産育児一時金はありがたい。 | — |
| 医療・健康 | 子どもの医療費助成 | ●医療費助成は助かっている。(7) | ・出産手段が少ない。 ・病院での仲間づくりができない。 |
| | 1か月児健診 | ・無料であること。 | ・毎月定期的にいがないと負担が大きい。 ・母乳外来でも補助がほしい。 |
| | 新生児訪問/赤ちゃん訪問 | ・新生児赤ちゃん訪問最高です。 | — |
| | 予防接種 | ●医療費補助はありがたい。(2) | ・対象年齢の拡充を。 |
| | その他 | — | ・島外への移動費を補助してほしい。 |
| 子育て支援 | 児童手当 | ●ありがたい。(2) | ・まとめてではなく数ヶ月に1回もらえるとよい。 |
| | 子育て支援センター | ●充実している。(5) | ・休日にやっていない。 ・昼食に利用できる場所がほしい。 |
| | トキの島ファミリーサポートセンター | ・相談するととても親身で手厚い。 | — |
| | 子育てエンジョイカード | — | ・物のサービスよりは割引の方がありがたい。 ・トキっ子カードに変えては？ |
| | 子ども若者相談センター | — | ・子どもが自分で相談できる体制が必要。 |
| | 佐和田児童クラブ(遊戯室開放) | ・開放が助かる。 | ・他の地域でも開放してもらいたい。 |
| | 児童館 | ・無料で利用できるのはありがたい。 | ・終了時間が早い。 ・飲食できるようにしてほしい。 ・より良い対応を。 |
| その他 | — | ●子育て情報が少なく分かりにくい。(2) ●子育てや家事を手伝ってくれる人がほしい。(2) ・親子で交流できる場が少ない。 ・ひとり親家庭への支援が不十分。 | |
| 保育・教育 | 保育園 | ・第2子以降の3歳未満児無料措置。 ・希望の園に通わせやすい。 | — |
| | 特別保育(延長保育) | ・延長保育・病後児保育はありがたい。 | ・延長保育の要件が厳しい(使用料がかかる)。 ・仕事時間の短縮支援や子どもが病気の時は休日が取りやすくする支援等がほしい。 |
| | 特別保育(一時預かり保育) | — | ・病後児保育で意味があるか。 |
| | 病後児保育 | — | ・人数が少ない地域には学童がない。 ・佐渡ならではのものがあると良い。 ・障害児の教育・生活環境が整っていない。 |
| | 学童保育(児童クラブ) | — | — |
| | 特別支援学校への補助制度、就学奨励 | — | — |
| その他 | ・私たちの声を直接聞いてくれる場がある。 ・子育て支援に関するノウハウを共有できるような仕事を立ち上げたい。 | ●子どもの遊び場がない。(17) ●民間活動に対する支援・助成が少ない。(2) ・子ども連れで利用しやすい店が少ない。 ・病院、遊び場等へ行く公共交通の充実。 | |

②もう1子の出生に向けたハードル、③その解決策

理想とする子どもの人数をかなえるための「課題」と「解決策」を子育ての3つの時期ごとに出し合いました。

| 主な課題 | 主な解決策 | 該当する時期 | | |
|-----------------------------------|---|--------|------|------|
| | | 妊娠・出産期 | 乳幼児期 | 児童期～ |
| 1) 子育てにかかる経済的負担への不安がある | ・不用品の寄附や一時的なグッズのレンタルができる体制をつくる。 ・出産祝金の配布や不用品フリマの開催等による経済的負担の軽減。 ・出産祝い等で商品券やファミサポ利用券を配布する。 | ● | ● | ● |
| 2) 職場や家族などでの理解が得にくく、子育てと仕事の両立が難しい | ・研修や制度により、子育てに対する企業の理解を深める。 ・職種や働き方の選択の幅を広げる。 ・臨時職員の増員等による人材確保。 ・学校で子育てに関する授業を行う。 | ● | ● | ● |
| 3) ママ・パパ同士や地域での相談・協力がしにくい | ・交流の場を設けて情報交換ができるようにする。 ・横のつながりをつくる活動へのサポートを行う。 ・地域コミュニティづくりのサポートを行う。 ・土日でも気軽に相談に行ける場所を設ける。 | ● | ● | ● |
| 4) 気軽に子どもを預けたり、家事の手伝いを頼める環境が不十分 | ・子育てや家事を手伝ってくれる人材バンク制度をつくる。 ・こむしんネットやAsMamaなど、地域力を強化して子育てを支援する。 ・自主保育の促進。 | ● | ● | ● |
| 5) 子どもが安全に遊べる場所が少ない | ・自然とふれあえるイベント等の実施。 ・外部NPO(野外活動系)へ依頼し、保育園に取り込む。 ・放課後に遊べる場所を確保する(室内・室外それぞれで遊べる)。 ・遊具や絵本があり、体験活動や飲食ができる施設をつくる。 ・学校を拠点とした課外活動の実施。 | ● | ● | ● |
| 6) 不妊治療の対象年齢が低い | ・対象年齢の上限を最低でも45歳にする。 | ● | | |
| 7) 妊娠・出産中に上の子をみてくれる人が欲しい | ・上の子を保育園に入れやすくする制度を設ける。 ・土日など上の子を見てもらえる場所を設ける。 | ● | | |
| 8) 出産環境の選択肢が少ない | ・出産できる施設を増やす。 ・個人でやっている助産師の紹介。 | ● | | |
| 9) 産後のサービスが不十分 | ・産後ケアに重点を置いたサービスを提供する。 ・産後に過ごせる施設を設ける。 ・家事や育児の訪問サービスを行う。 ・赤ちゃん教室の実施。 | ● | | |
| 10) 病気等の緊急時に子どもを預けられる場所がない | ・託児サービスやベビーシッター等かけこめる場所を設ける。 | | ● | |
| 11) 保育士等の人材が不足している | ・保育を学ぶ学生への奨学金等のサポート。 ・保育関係者の所得向上。 | | ● | |
| 12) 進学時の学費や養育費が高い | ・学費や養育費援助などの経済的支援を増やす。 ・奨学金に限らず大学費の援助を行う。 | | | ● |
| 13) 教育環境の質が低下している | ・ソフト的な支援による教育格差の解消。 ・塾などの学校以外における教育支援の実施。 | | | ● |

※各班の意見の詳細は裏面をご覧ください。

各班のご意見

①子育て支援策の評価 ※ () は同じ班の中での同様の意見数

| 施策 | 良いところ/不満なところ | 凡例: ●A班 ■B班 ▼C班 ★D班 |
|--------------------|--|---------------------|
| 特定不妊治療費 | ★不妊治療の年齢をもう少しあげてもよいと思う。 | |
| 妊産婦医療費助成 | ●妊産婦・子どもの医療費助成制度。 | |
| 妊婦健診・妊婦歯科健診 | ■妊婦健診、歯科検診が無料になっていることに満足。(2) | |
| 妊婦訪問 | ■妊婦訪問。 ▲講習会、健診、訪問など、出産前産後の不安を解消してくれて助かる(心強い)。 | |
| パパとママのためのマタニティセミナー | ●パパ・ママセミナー良かったです。お風呂の入れ方とか、出産に向けて準備できた。 ★パパママのためのマタニティセミナーは夫婦間コミュニティ、会話のきっかけになり良かった。 ▲マタニティヨガなど、マタニティ期の交流の場があったら良い。 ★赤ちゃん教室がない(月1開催)。 ★パパは出産してから初めて、親としての気持ちになることがあるため、妊娠時からのパパへの指導を強化してほしい。 | |
| 出産育児一時金 | ■出産育児一時金ありがとうございます。出産にこんなに費用が掛かるなんて、知りませんでした。 | |
| その他 | ■妊娠するための女性の体作りの指導。 ★出産の手段が少ない(助産院・自宅出産のニーズあり)。 ★妊娠時の病院での仲間作り。 | |
| 子どもの医療費助成 | ●子どもの医療費助成。(2) ■医療費の無料化等とても助かっています。気軽に受診できる。(2) ▲医療費助成が高卒までありがたい。 ★子どもの医療費助成助かっています。(2) ●子どもと同じ症状がある時は朝も小児科で診察してほしい。 ▲母乳外来の金額高いので補助がほしい。 ■医療助成はありがたいが、毎月定期的にいかなければいけないと負担が大きい。無料の自治体もある。 | |
| 1か月児健診 | ●1か月健診無料。 | |
| 新生児訪問/赤ちゃん訪問 | ★新生児赤ちゃん訪問最高です。 | |
| 予防接種 | ●インフル注射半額。 ▲医療費の補助(受診・予防接種)、フッ素助成がとてもありがたい(他市の人にうらやましがられた)。 ●なるべく年齢で無料になっていない子もいるので拡充を。 | |
| その他 | ★患外への移動費を補助してほしい。 | |
| 児童手当 | ★児童手当は日常生活に係る経済費用に役立つ。(2) ★児童手当がまとめてではなく、2ヶ月に1回もらえるとうい。 | |
| 子育て支援センター | ●子育て支援センターが充実している。 ■子育て支援センター助かります。 ▲支援センターに先生がいてくれて行きやすくなった。 ▲支援センターが午後もあいていて利用できる。 ★子育て支援センターの対応がよく、充実している。(2) ●支援センターが休日にやっていない。 ★子育て支援センターの時間や利用を柔軟に対応してほしい(昼12:00~13:00は出ないといかないので昼食食べてもいい所もあっていい)。 | |
| トキの島ファミリーサポートセンター | ●相談するととても親身で手厚い。 核家族世帯にとって、子育て支援センター・ファミサポ・子ども若者相談センターがあるのは安心できる。 | |
| 子育てエンジョイカード | ▲内容をもう少し子どもの物(服代・食品代)への割引にして欲しい(サービスよりは3%でも5%でも良いので割引の方がありがたい)。 ★子育てエンジョイカードをトキっ子カードにかえては? | |
| 子ども若者相談センター | ★子どもが自分で相談できる体制が必要。 | |
| 佐和田児童クラブ(遊戯室開放) | ★佐和田児童クラブの開放が助かる。 ★佐和田だけではなく、他の地域でも開放してもらいたい。 | |
| 児童館 | ★児童館が無料で利用できるのはありがたい。 ●児童館終了時間が早い。 ★児童館の人数が少ない。 ★終業式や始業式などで子どもが早めに帰宅した場合、児童館で飲食できるようにしてほしい(臨時対応)。 ★子ども達がケンカした場合や問題を起こした場合に児童館スタッフが対応してくれないことがある。よりよい対応してほしい。 | |
| その他 | ■親子同士で交流できる場が少ない。 ■外遊びを促す活動とかあると交流できるし、子どもの体力作りにもつながり、新しい学びにもつながる。 ▲出産前後、子育てや家事を手伝ってくれる人が周りにいない人は大変!! (特に移住者)。 ★子育て情報をもっとわかりやすくしてほしい。 ★Uターン者への情報が少ない。 ★ひとり親家庭の支援をもっと充実させたほうがよい。 ★託児サービスやベビーシッターがほしい(できれば即日、沐浴とかも可)(1人親支援)。 | |
| 保育園 | ■保育園の第2子以降の3歳未満児無料措置。 ■保育園の空きがあり、複数から選んで希望の園に通わせやすい。 ■保育園は時間も長く満足している。給食も細かくケアしてくれている。 ★食材が豊かである(佐渡産)。 ★保育園では、少人数でも楽しそうに通っている。 | |
| 特別保育(延長保育) | ★延長保育・病後児保育はありがたい。 ★延長保育の要件が厳しい(使用料がかかる)。 | |
| 特別保育(一時預かり保育) | ▲預かり支援だけに力を入れるのではなく、仕事時間の短縮支援や子どもが病気の時は休日が取りやすくなる支援等がほしい。 | |
| 病後児保育 | ●病後児保育で意味があるか。 | |
| 学童保育(児童クラブ) | ■地域により人数が少ないと学童がない(つくってもらえない)。 ■身近に遊ぶ友達がいない(ほとんどが学童)。 ★学童保育など放課後の子ども達の時間をもっと有意義にしてほしい。 ★施設やイベントなどで佐渡ならではのものと良い。 | |
| 特別支援学校への補助制度、就学奨励 | ▲障害を持った子の教育・生活環境が整っていない。 | |
| 遊ぶ場所の確保 | ■公園の遊具がないことは、今後いいことになっていくかも。最低限、水、トイレ、あすま屋があれば。 ●公園や外で遊べる所が少ない。整備されていない。(2) ●子どもの遊び場がない(休日・屋内)。 ■公園等整備されていない所がある。(3) ▲自然の環境を活かして遊べる広場、遊歩道、アスレチックなどが欲しい。 ▲未就学の子も遊べる場所がない(土日でも利用できる室内公園のような施設)。 ▲公園の遊具の整備をして欲しい。(3) ▲放課後や休日など子ども同士で遊ぶことが難しい(近所に友達がいない、親の送迎が必要)。 ★小学生以上の遊び場が足りません。(2) ★冬季、雨の日には遊べる場がない。(2) ★身近に子どもの遊び場がない。 | |
| 活動支援 | ★子育て支援に関するノウハウを共有できるような仕事を立ち上げたい。 ■自分たちで活動しようとしたときに、行政担当者が数年で代わり、引き継がれないことがある。言っていることが違うので、活動の弊害になる。もっと協力してほしい。 ■民間活動に対する支援・助成が少ない。 | |
| その他 | ●今回のように私たちの声を直接聞いてくれる場がある。 ▲親・子どもが忙しい(仕事・塾・スポーツ)。 ▲「子育てしやすい」だけでは何か足りないと思う。子どもが安心して育つ支援策が大切では。 ▲各お店に個室や座敷のあるところ、赤ちゃんのためのトイレ、授乳室が少ない。 ★転勤の人が住む地区で、人を地域にまきこむことがない。 ★病院、遊び場、買い物、セミナーなど、何をしても現地までが遠く、移動に時間がかかる(公共交通なども充実させてほしい)。 | |

②もう1子の出産に向けたハードル、③その解決策 凡例: ★共通 ●〜妊娠・出産期 ▲乳幼児期 ■児童期〜

| 班 | 課題 | 解決策 |
|--|--|---|
| A班 | ★経済的不安。 ★急な用事に加え、ちょっとした薬の受け取りなど、サポートセンターの事前予約が難しい。 ★社会の理解(配偶者、勤務先)。 ★夫婦だけでは難しい場面有り。コミュニティ、つながりを作る。 ★自分自身に気持ちの余裕もない。 ★公園や施設の集中。散在している。 ★働きやすい環境がない(子育てしながら)。 ★仕事量・時間など、選択して持続可能にできる社会。 ★ワーク・ライフ・バランス。子育てと仕事を両立できるように全体的な理解。 | ●商品券。●不要品などを譲ってくれる(仲介)。●多子世帯に追加支援(費用、制度)。 ●LINEなどで気軽にベビーシッターやヘルパー(家事を含む)を頼める人材バンク制度・登録する場所。 — ●地域で助け合えるコミュニティ作りのきっかけ。 ●子育て世代の情報交換する場。屋内(公的施設)、屋外(公園)。 ●プレーパークを作る(支援員が常駐。親も体験活動やカフェ等があればリフレッシュ)。公園の内目の充実。 |
| | ●妊娠・出産中の子を見てくれる人がいない。 ●上の子を見る人が欲しい…!(産後)。 ▲自宅保育する方にもう少し金銭的支援が欲しい。 ▲病院の対応。 ▲高校卒業以降教育私費が日本は高い。 | ●産後ケアを導入して欲しい(退院後、1ヶ月内で入院を証したり相談できる制度)。 ●産後、上の子をみてくれる機会(土日など)。●妊娠中から上の子を保育園に入れられる制度。 ●上の子が3歳以下なら働いていなくても保育園に入れる。 — — — |
| | ★世の中の考え方、子どもが多いことを良い評価にして。 ★職場(仕事)での理解。残業やめよう。 | ●「子育てしよう!子どもと遊ぼう!」の雰囲気作り。●子育て世代、毎日ノーマル残業デー。 |
| | ★子育てを気軽に相談できる場があるといいと思います。 ★子育ての協力。 | ●ファミサポの発展形。どこでもいける、なんでも手伝える人を何人か。 ●お母さんお父さんの話を聞いてあげれる。相談アドバイスの場所。 ●土・日も気軽に打てる相談や相談できる場所を設けて欲しい(平日勤務の人にも対応)。 ●自主保育はとていいです。 |
| B班 | ★子育て用品を揃える費用や保管場所の負担がある。 ★教育費など子育てにかかる費用の問題。 ★経済的な具体的なイメージをもちやすくする。 ★いろいろな面での費用。 ★公民館など市営の施設を子育て世代が使用できるといい。 ★夫婦で相談。 | ●新生児期に一時的に必要なグッズのレンタルができる(ベビーベッド、ベビーバス、パウンサーなど)。 ●出産前後に必要なグッズを最低限でも揃えてプレゼントする。 ●いらなくなったものを集めて、掲示板などで欲しい人を募る。バザー、寄付。 ●子ども若者相談センターで寄付受付、希望する人に渡す。 ●放課後の遊び場確保。 — — |
| | — | ●産後ケアに重点をおいたサービス(マッサージ、ヘアカット、そうじ、話し相手など)を無償or安価で提供し、不安を和らげリフレッシュさせてあげる。 ●産後1か月通わせる施設(韓国にあるサービス)。産後ケア充実で、熊本に実在していて、そのためにそこへ出産しに行く人もいる。佐渡市の環境を活かして売りにできるのでは。 ●パパママセミナーのその後につづく講座をひらく。●就学支援の職業を増やす(保育、看護以外で)。 |
| | ★経済的負担が未知すぎて不安。 ★子育て中のパパママが自由に集まれる場所が少ない(区、トイレ、会)。 ★産後子育てをしているお父さんお母さんが、気軽に話せるサポートの存在のアピール不足。 ★子どもを自分で見たいと素直に言える環境(おじいちゃんおばあちゃん達にも理解してもらえるよう何か…)。 ★ファミサポをもう少し安い料金で佐渡市負担。 ★仕事をしている人が、子どものために休みをとりやすいしくみがもっと確立して欲しい。 ★急な病気になった時にの子世話をしてくれる人がいない。 | ●わかりやすい子どもの年齢に応じた必要内容(金額も含め)その補助。 ●実際に体験した人に話を聞く場を設ける。●交流の場を設ける。●集まれる場を設ける。 ●(お父さんバージョンも)NP(佐渡 Nobody's Perfectプログラム)がすごく心強く感じている。 ●横のつながりをつくるような活動の場をサポートする。 ●教育の中で、子育てについて考えたりする授業があるといい(大人になる前にどう育てていくのか?など学ぶ)。 ●ファミサポ利用券を市の出産祝いにする。 ●市の情勢で、各事業所で休暇を取りやすい制度をつくる。●会社の子育て環境の理解。 ●佐渡の職生全体に、休みをとりやすい仕組みをつくらせたり、通知研修したりする(社長管理職など集めて)。 ●ちょっとした時でも、安心して子どもを預けられる環境。協力してもらえる。 |
| | ★3人目に何百万というよりも、公園などの方(だれでも利用できる)に予算の配分。 ★友人同士の遊び、子どもが参加したい活動に親の送迎が必要。 ●産前産後に協力している人がいない。 ●出産環境、選択肢が少ない。 ●出産できる場、選択肢が増えるといい。 ▲支援員さん(学校・保育園)保育士さん増員してない。 ▲大学費用。 | ●室内で遊べる場(新潟市を参考に一寺山公園?) (花とみどりの一というところではないですが…)。 ●児童クラブがある。増やすだけでなく、子どもの成長、発達にも目を向けて。室外でも遊べる。 ●放課後、子ども達が子ども同士で遊べる場。佐渡の自然を活かして。 ●利用カードを作る一親子で遊び(室内の大きなベリ台等の遊具、絵本を読めるところ、持ってきたご飯を食べられる)。 ●学校を拠点として、子どもだけで参加できる課外活動をつくる。 ●お父さん方の趣味を通じた親子教育など。 ●産後、家事、赤ちゃんのお世話、訪問の無償サービス。 ●出産施設を他にも。もしくは佐渡病院でもっとフレキシブルな出産できるように。 ●産んでやっていく助産師さんはいくつかあるので情報をとりやすくする(支援センターで、情報手に入る)。 ●学びに対するサポート(奨学金など)や、給料UP。 ●補助の充実。 |
| ★父親の子育て意識が薄い。 ★仕事選ばれる選択が少くない。 ★子どもの遊び場が少ない。 ★外で遊ぶ場所が少ない。 ★子育てと仕事の両立が難しい。 ★休みやすい職場環境・人間関係をつくる。 ★身近に子育てを協力してくれる人がいない。 ●出産方法(無痛とか)の選択肢が少ない。 ●子育て環境をより充実させる。 | ●職場への働きかけを行う(育児休業、育児有休等)。●佐渡でも暮らしやすい職場の幅を広げる。 ●リモートワークやテレワークによる仕事選択を増やす。 ●自然とふれあうと記憶に残りやすくなるため、自然とふれあうイベントがあるとよい(子どもの思い出、ふるさと・帰ってきたくなる意識となる。移住者にも働き手として伝えられる)。 ●外部NPO(野外交渉系)への依頼し、保育園に取り込む。 ●介護・福祉の仕事が多いのに求人か減らないため、待遇を良くするなどの取り組みが必要。 ●職場での残業を禁止する等。●女性への就業支援を行う(働き方改革や意識改革など)。 ●普段使っている施設(児童館・小学校)内で子育ての協力に対応して欲しい。 ●こむしんネットやAsMamaなど、地域力を強化して子育てを支援する。 ●出産方法の選択肢を増やす。 ●赤ちゃん教室を実施する。●出産おめでとうBOXをプレゼントする。 ●出産祝金を配布する。●不要品等フリマの定期開催。 ●せめて45歳にする!! ●託児サービス、ベビーシッター、かけこめる場所があるとよい。 | |
| D班 | ■養育費などの経済的不安がある。 ■子どもの放課後の質が低下している。 | ●学習や養育費補助など、経済的支援を増やして欲しい。●小学生・中学生への資金を援助する。 ●子どものころからの平等な人権の意識をつけさせる。●奨学金に限らず、大学費の援助を行う。 ●教育格差に対してソフト面の支援を行う。●塾などの、学校以外での教育支援を行う。 ●佐渡市の試みとして、市民の声を聞くような意見箱あってもよい。 |